

【56】堤防が火事だ！

だいぶ昔のことですが、北海道の石狩川で堤防が火事になって消防車が出動したという話を北海道開発局の人から聞かされました。そんなこと、関東平野の河川じゃ、ちっとも珍しいよというと、“違う違う、枯れ草じゃなくて堤防自体が燃えるんだ！”

わけを尋ねると、石狩川の下流域は泥炭地になっているところが多い。泥炭 (peat) は湿地性の植物が枯れても低温のため腐敗せず、水中に泥土といっしょに堆積し、年月を経るにつれ一部は炭化して泥まじりの石炭のようになったものだといいます。地下水の高い湿地から掘り出して乾燥させておくと良い燃料になり、ウイスキーのスコッチは精製のとき泥炭を燃料に使うからおいしいのだとか。

問題は、昔の河川工事では現場採取した泥炭を築堤土として使ったのですが、堤防は地下水位より高い所にあるので、堤防に使われた泥炭は長年の間に乾燥して燃え易くなっているそうです。堤防の表面の芝や雑草が枯れて火がつき易くなっているとき、タバコのポイ捨て、焚火や野焼きで火がつきそれが堤体の泥炭に燃え移っていくというわけです。

さらに困るのは、一度泥炭の堤体に火が入ると表面は消し止めても内部の火はなかなか消えず、何ヶ月にもわたって燻り続け、とんでもなく離れたところから火が出たりして人々を悩ませることです。

へーと感心して耳を傾けました。北海道以外の人には想像がつかない珍事です。